

# 令和4年度第1回寒川町総合計画審議会 意見提案に対する町の回答について

## 議題1 寒川町満足度アンケートの結果について

番号	審議会委員からのご意見	町回答	委員
1	アンケートの回答で特に高齢者の回答が年齢の比率から見て少ないとの確認を頂きましたので、高齢者の意向を追加できる施策を計画願いたい。 例：電話によるアンケートや職員が訪問してのアンケートなどの方法があると思います。	<p>回答者の比率については、紙ベースでは70歳代以上、オンラインでは40歳代～50歳代が多い特性があります。 アンケートの実施方法によって、回答者の年齢比率が異なることを踏まえ、回答者の年齢比率を平準化して分析する等、全世代の意向を平等に把握できるように意向調査や分析をまいります。</p> <p>現在、満足度については、寒川町総合計画2040の実施計画策定に合わせて4年に1回紙ベースでアンケートを実施する予定で、今回は令和6年度に実施する予定です。今回は試行的にオンラインで実施いたしましたが、今回の回答者の年齢比率を踏まえて今後のアンケートの実施方法を検討まいります。</p> <p>また、分析時に回答者の年齢比率を平準化する等、回答者の属性の比率の偏りを踏まえた分析方法も検討まいります。</p> <p>なお、今回のアンケートは18歳以上の方を対象としておりましたので、20歳以下の回答数が少なくなっております。</p>	及川委員
2	紙ベースでの実施に比べてオンラインでのアンケート回収率が大きく伸びたのは良かったと思います。 ただ、それにより回答できるのが若い世代に偏った感(他の委員のご指摘にもありました通り)あります。 高齢者に関しては自治体や任意団体(ボランティア等)の取りまとめをされている方に協力をお願いするなどして、紙媒体での回収した方が良くもかもしれません。		落合委員
3	アンケートの取り方について、コロナ禍で一気にオンライン化が叫ばれました。 若い方(40～50歳代まで?)は紙ベースよりPCやスマホが当たり前で、今回の結果でも示されています。 逆に60歳代以上は紙ベースが主流ですので、これからのアンケートは両者を併用して合算する方法が必要ですね。		高橋委員
4	<町追記:アンケートの取り方や30代40代の女性の回答が多かったことについて> 回答属性のばらつきに対するの対策を考えたい。 今回のアンケートでは20歳以下、70歳以上が少ない印象であり、左記の層の意見(声)を収集できるよう話し合いたい。		野田委員
5	アンケートの取り方で判断に必要な情報を事前に与えることも必要と考えますが、判断材料の提供方法について改善案を具体的に教えて下さい。		及川委員
6	「自然環境保全の推進」への取組については「施策タイプⅣ」で分類されています。 関係者の努力で現状保全活動が行われ自然環境が維持されているように見えますが、「みどりの基本計画」等町の計画では自然環境保全は「現状維持」で積極的な対策はとらない方向性で実際に関係部局と話すとき将来緑地は減少してゆく見通しであることがわかります。 それを正しく町民に周知した上で「今後の取組の重要度」を聞いた場合、重要度の評価は変わってくるのではないのでしょうか。 見解をお願いします。 上記内容<町追記:審議会委員からのご意見番号5>も踏まえ、アンケート結果の分析方法の改善について、改善案を具体的に教えて下さい。		及川委員

※「審議会委員からのご意見」欄に、必要に応じて<町追記: >内に前回の確認事項を追記しておりますので、ご了承ください。

# 令和4年度第1回寒川町総合計画審議会 意見提案に対する町の回答について

## 議題1 寒川町満足度アンケートの結果について(つづき)

番号	審議会委員からのご意見	町回答	委員
7	満足度のアンケート結果につきましては、質問された内容について、じゅうぶん精査し、今後に生かしていただけたらと思いました。 特に菊地委員のご意見<町追記:町民への満足度アンケートにおいて、イメージしやすい公共サービス(防災など)の重要度が高くなりがちではあるが、基盤整備に関する施策(広域行政など)は、本来重要度が高いものとして分析する必要がある>に同感です。 施策タイプⅢにある「広域行政によるまちづくり」は「防災対策の充実」に大きく関係があると思われるので、重要性を感じています。	町民アンケートにおいては、生活上実感のある施策の重要度が高くなる等の傾向があると考えております。アンケートの特性を踏まえ、他の調査結果や計画の目標指標の達成状況等を踏まえながら施策や事務事業を検討・実施してまいります。	小川委員
8	町外から移住された方や子育て支援が必要でない方は行政サービスや自分に関係しないサービスは満足度が低かったり、無関心もやむ無しとのことですが、そうした方にも認識されて、行政に大いに関心を持っていただき、各種イベント等に参画していただけるようPRしていくことが必要と思います。 「福祉のまち」を謳いながら多くの町民がそのことを感じていないようなら大変残念です。	現状を把握するためのアンケートであるため、回答者に関係の薄い行政サービスについては、重要度が低くなる傾向にあるものと考えます。 しかしながら、ご指摘のとおり回答者に関係の薄い行政サービスであってもご認識いただき、まちづくりに参画していただくことは重要であると考えております。	高橋委員
9	アンケートに参加することに対してリターンがあると町民も参加する可能性が高いと考えています。しかし、予算がかかってしまうため(紙媒体のアンケートも中止しようとしていたこともあり)工夫が必要です。 民間飲食店や雑貨店のクーポン等と連携することも案として挙げる。(協賛を募る等)	今後の回答数の推移などを踏まえ、適切なニーズ把握ができるよう検討してまいります。	野田委員
10	<町追記:高齢者の回答が年齢の比率からみて少ないことへの対応について>:アンケートの協力を行政のみではなく、民間団体と協力することを案として挙げる。	過去に子育て世帯の満足度調査を実施する際に、小中学校の協力のもと、保護者向けアンケートを配布・収集したことがあります。 アンケート回答数確保に向け、アンケートの目的を踏まえて、各種団体などと協力したアンケート実施方法を検討してまいります。	野田委員

※「審議会委員からのご意見」欄に、必要に応じて<町追記: >内に前回の確認事項を追記しておりますので、ご了承ください。

# 令和4年度第1回寒川町総合計画審議会 意見提案に対する町の回答について

## 議題2 寒川町総合計画2040第1次実施計画事務事業評価結果について

番号	審議会委員からのご意見	町回答	委員
11	事務事業評価結果622-01「職員力向上事業」です。目標値5に対して実績値-0.29です。職員力は向上させようとして逆に低下していることを確認頂きました。本来「新化する町」の先頭に立つて魅力ある街づくりを担うべき町職員のモチベーションが上がらないということは計画実行の根幹にかかわる問題ではないでしょうか。 しかもコロナの影響で逆に町職員への教育に割ける時間は多かったです。 具体的施策含め取り組みの早急な見直しを検討いただき、改善策を提示ください。	ご指摘のとおり、まちの将来像「つながる力で新化するまち」を実現させるためには、町職員のパフォーマンスを向上させる必要があります。そのため町職員のモチベーション向上は最重要課題であると考え、目標指標として設定しております。 そのため、人事業務は総務課の1つの担当で受け持っておりましたが、令和3年度に人事課として独立させて重点的に推進していく体制といたしました。  モチベーションは、職員にモチベーションに関わるアンケートを行い算出しております。基準値では、モチベーション指数を最大100で表すと約70まで到達している状況にあります。-0.29%の減少では、概ね約70まで到達している状況には大きな変化はしていないと認識しております。しかしながら値は増加を目指しながら減少したことは重く受け止めております。	及川委員
12	「職員力向上事業」が-0.29になったと言うことは具体的にモチベーションが向上した職員の割合が下がった。モチベーションが低下した結果。 よく理解できないのですが、もし職員のモチベーションが低下したなら行政として重大な問題になると思います。 今少しご説明をお願いします。	職員意見による、減少の要因ですが、新型コロナウイルス感染症への対応など業務量が増大したことや本来行うべき業務への大きな影響、対面を制限される状況など、新型コロナウイルス感染症の影響が大きなものであったとのことです。 業務負担が増している状況においてデジタル化への対応や事務の効率化などの将来に向けた環境変化への対応をすべく体制の見直しを行ってまいります。 また、職員意見においては、知識、能力の不足を感じるとの声もあり、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修機関の研修休止により研修機会の不足など、業務多忙と相まって知識、能力の向上の機会、時間が不足している状況にもありますので、研修機会の確保にも努めていきたいと考えております。	高橋委員
13	<町追記:「職員力向上事業」の目標指標である職員のモチベーションが実績値-0.29%となっていることについて>モチベーションの低下の原因を知り、改善案を考案していきたい。		野田委員
14	基準値、目標値などについての数値の根拠がわからないので(イメージがしにくいので)、表の数値だけでは判断をしかねます。	委員の皆様が意見を出しやすいように次回以降の資料を検討いたします。 具体的には、目標値などの数値根拠ではございませんが、意見が出しやすいように施策及び事務事業の所管部課等が把握している課題などを合わせてお示しいたします。	落合委員
15	<町追記:「学校教育の推進」の目標指標が全て100%達成していることについて>で私が危惧したのは、推進指標達成が高水準ですと、担当者はそれに満足して更なる向上努力が減退してしまうということです。 執行者は目標は高く、常に強くモチベーションを維持するようになっていく必要があります。	昨年度から「事中評価」と称した年度中での事業振り返りも実施しており、毎年度実施計画の内容を変更することができることであります。 実際に、広報プロモーション活動事業における事務目標「町に対して良いイメージを持って転入した人の割合(%)」については、今後も目標値を大きく上回る予想ができたため、令和4年以降の目標値を上方修正しております。 今後も目標を高く、モチベーションを維持して行政運営できるように進行管理してまいります。	高橋委員

※「審議会委員からのご意見」欄に、必要に応じて<町追記:>内に前回の確認事項を追記しておりますので、ご了承ください。

# 令和4年度第1回寒川町総合計画審議会 意見提案に対する町の回答について

## 議題3 総合計画審議会の委員間の議論の進め方について

番号	委員提案	町回答	委員
16	(委員間の議論の進め方に係る)総合計画審議会の進め方について、議題3(前回町送付資料)に「委員間だけでなく、臨時での町民参加による議論や…」とありました。それに対し私は臨時に委員以外が参加されることは無理ではないかと述べさせていただきました。次回は臨時委員は呼ぶ予定はない。とのことですが、いずれは呼ぶこともあるとの考えでしょうか。専門家や関係者に参考人等で意見を述べていただくことには反対しません。	ご意見をいただいたとおり、次回は臨時委員を呼ぶ予定はございませんが、今後必要に応じて専門家や関係者に臨時委員として参加していただく可能性はございます。	高橋委員
17	どうしても「委員間の議論」を実施するという回答ですが、そのこと自体を否定するものではありません。ただ、審議会とは別枠で計画頂きたいと思えます。テーマ案をあげるなら以下の2つです。 ①町の魅力を向上させるための施策検討 ②町職員のモチベーションをあげるための施策検討 いずれのテーマも、企画政策課の方も議論に参加して頂きたいいろいろスキルをお持ちの委員を交えて、意見交換をし、総合計画に生かせる気づきを拾い出しましょう。ただ、繰り返しになりますが、審議会とは別のイベントとして計画頂きたいです。	委員間の議論につきましては、昨年度の本審議会において試行的に実施することを委員の皆様にご了承いただいております。そのため、今年度は本審議会において実施し、その結果を踏まえ次年度以降の議論の場について検討していきたいと思っておりますので、ご了承くださいませようお願いいたします。 「町の魅力を向上させるための施策検討」及び「町職員のモチベーションをあげるための施策検討」をテーマ候補に追加いたします。	及川委員
18	議題は事務局ご提案の2案でお願いします。「試行的にワークショップ形式」は今年から参加した者としては、ありがたいです。と言いますのも、今までの経緯を持ち合わせないなか、細かく複雑な資料に向き合いながら会議に出席していますので、小グループになることで、以前からの委員の方にわからない点を補っていただけて、より理解が深められることに期待をするからです。	本審議会は、委員改選してから3回開催しておりますが、内2回を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面にて開催しております。そのため、例年以上に議題の内容が分かりづらい状況となっていると思えます。今後町から発出する資料につきましては、より分かりやすい内容となるよう努めてまいります。ご不明な点はいつでも事務局にお問い合わせくださいますようお願いいたします。	落合委員
19	<町追記:審議会委員からのご意見7番>から議論すべきテーマにつきましては、ポートフォリオ分析で重要度が高いとされている、「防災対策の充実・行政」についてを、優先的に検討していきたいと考えます。	ご提案ありがとうございます。 「防災対策の充実・行政」をテーマ候補に追加いたします。	小川委員
20	現在審議会はコロナウイルスの増加で現在対面ではなく、書面上でのやりとりが続いています。対面会議から書面会議に変更するにあたり、判断基準があるのでしょうか。今後も対面で会議を行えるかわからない、先の見えない世の中だと思います。今後オンラインでの会議等は考慮されているのでしょうか。 <町追記:審議委員相互の意見交換を今までほとんどやってこない>でも記載されているように、委員同士でのコミュニケーションがまだ足りておらず、方向性が散漫してしまっている印象です。	対面会議から書面会議に変更するにあたっては、判断基準に照らし合わせてではなく、その時々々の状況を踏まえ、会議招集を行う会長と相談のうえで判断しております。オンライン開催にあたり、委員の皆様にご確認したところ、複数の方がオンライン会議の環境が整っていない状況でした。オンライン環境の整っていない委員の方向けに町で会場を用意したハイブリット開催も検討していたところですが、町役場の職員もコロナ陽性者が発生している状況もあり、委員の皆様のご安全が守れないと判断し書面会議といたしました。今後も対面会議ができない場合は、オンライン会議か書面会議のどちらが最適かをその時々々の状況を踏まえて判断してまいります。	野田委員

※「審議会委員からのご意見」欄に、必要に応じて<町追記: >内に前回の確認事項を追記しておりますので、ご了承ください。